

3 / 3 校長講話 サークスの象

3月に入りました。1～4年生は15日、5・6年生は16日で今年度が終わります。自分が立てた目標はどうでしょうか。達成できていますか。近づいていますか。諦めてないですか。

話をかえます。今日は「サーカスの象」というお話をします。サーカスの象は、曲芸（舞台に上がる）の出番以外は小さな杭に鎖でつながれています。大きな像からすれば、小さな杭なので引き抜くことができます。しかし引き抜こうとはしません。それはなぜなのでしょう。

それは、抜けないという記憶が残っているからです。実は、子象の頃に何度も何度も杭を引き抜こう試みます。しかしまだ小さい象は力がなく引き抜くことができません。それどころか鎖が足に食い込みとても痛い思いをしたのです。子供の頃に「抜けない」「痛い」そんな記憶が残っているから大きな大人の象になっても小さな杭を抜こうとしないのです。大人の象だったら簡単に抜ける杭を…

象をつないでいたのは何か。それは、杭そのものでなく「自分には無理」という「諦めの心」だったのです。象を縛っていた杭の大きさは変わりません。だが成長して力がつけば、杭は引き抜けるほど小さな存在に変わります。

皆さんもそうです。「自分は無理」「どうせできない」などの「諦めの心」はありませんか。そんな気持ちはもったいないです。皆さんはどんな可能性が秘めているのか計り知れません。

残りの日々を「挑戦の心」で過ごしてください。